

浜松市制100周年記念スペシャル対談

野田佳彦首相×鈴木康友浜松市長

野田首相と鈴木市長は松下政経塾二期生の同期で30年以上の付き合い。
国民・市民をリードする盟友同士の対談が
「HAM流」の特別企画として実現。



お二人は松下政経塾時代からのお付き合いだとお聞きしました。出会ったときの印象も含めて、人柄や性格について、お互いに紹介してください。

鈴木市長 野田首相は、あんまり無駄なことを言わない、寡黙な人でね、コイツ一体どういう奴だろうって最初は思ってたんです。だいたい松下政経塾の一期生で入ってきた人は「お前ちよっと黙ってろ！」と言っても喋るような連中ばかりですから(笑)、そういう中にあつて異色でした。たまたま一緒に共同研究をすることがあつて、それで話すようになり、夜一緒に酒を飲みながら話したら、コイツはなかなかすこいやつだなと。それから大変親しくなりました。今もその当時と変わりません。じつくり話す良さがあります。「どじょう」じゃなくて「スルメ」だと、嘔めば嘔むほど味が出るタイプだと思います。

野田首相 正攻法で来ましたね(笑)。鈴木市長がおっしゃったとおり、私はこんな感じのゆったりとしたタイプなんです。彼は明朗、快活、ムードメーカーなんです。自分とはまったく好対照です。仲良くなったきっかけは、松下政経塾の体育の時間にリングテニスという種目でダブルスを組んだときです。そのときに、我々が優勝しちゃって。それ以来の関係で、キャラクターは違うけど、いいコンビなのかなと。

それからは、夜な夜な私の部屋で夢を



語ったり、公私ともに色々なことを通じて、いいところ、悪いところを知りぬいた中で、まさにマブダチですね。

野田首相は浜松市にどのような印象をお持ちですか？

野田首相 スズキがあつて、ヤマハがあつて、ホンダがあつて…、まさに産業が集積した元気のあるまちというイメージをもともと持っていますし、合併をしてさらに興行きが出てきたと思います。何回か鈴木市長の選挙の応援に行ったり、家族旅行で館山寺温泉に行ったりもしました。また、浜松まつりの風揚げなどからも元気で明るいまちというイメージが強烈にありますね。そして、何より食べ物がおいしい。私は「どじょう」を演説に使っていますが、「うなぎ」が大好きですから。あとは、天然トラフグとか、牡蠣とかね。おいしいものがいっぱいあつて、ゆつくり行きたいところですね。

これから鈴木市長に浜松市のPRをしていただくかと思いましたが、それがいらなくらいの野田首相のお言葉でしたね。

では、鈴木市長から野田首相へ浜松市の紹介をお願いします。

鈴木市長 今、野田首相におっしゃっていただいたとおりで、基本的に大変元気で潜在力のあるまちです。

鈴木市長は、昔から頭の切れる アイデアマン。

城の規模は姫路城や熊本城などに勝てないので、「出世」というストーリーで、売り出していると考えています。「受験生の聖地が北野天満宮」ならば、「サラリーマンの聖地は浜松城」と言われるようにしたいですね。

今、浜松城では、民間企業が「出世城」にちなんで作ったカードが売られています。「出世城パワーカード」と言うのですが、しっかり神社でご祈禱していただいて、「出世運」が授かるというカードです。今日はこれを一枚進呈しますよ。これを持っているとさまざまな苦難もばつちり乗り越えられますよ(笑)。

浜松には、その他にもいろんな資源があるので、そういうものをアイデアでどんどん売り出していきたいと思っています。

一昨年、世界文化遺産になった中国・杭州市の西湖に行きました。小さな湖なんです。年間7000万人の観光客が来るんですね。この西湖と浜名湖は昔から深いつながりがあることがきっかけで、この春に杭州市と都市間協定を結ぶことになりました。これを契機に、中国からの観光客を誘致したいと考えています。

野田首相 鈴木市長は、昔からこういうアイデアがどんどん出てくる人でしたね(笑)。

今回の情報誌は、「市民が幸せを感じる浜松の暮らし」をテーマにしています。お二人は、プライベートも含めてどんなときに幸せを感じますか？

野田首相 講演などで地方へ行った際に、路地裏にあるようなお店で、地元魚や地酒を賞味するのが大好きです。今はプライベートの時間がなくてそれができないものですから、自宅で名湯の入浴剤につかたて晩酌をしている時が幸せと感ずる瞬間ですね。

鈴木市長 私もプライベートの時間があまりないので、自宅で食事をして、お酒を飲んでいるささやかな瞬間に「ほっ」として、喜びを感じます。私が国會議員だった頃は、夜中に国会が終わったあと、よく二人で居酒屋に行き、キーツと一杯やるのが楽しみでした。

国民や市民が「幸せ」だと感じられる環境をつくるためには、首相をはじめ国會議員や首長の役割は大変重要です。国民や市民が「幸せ」だと感じる環境を作っていくために、「国や浜松市をこうしていきたい」という夢や思いをお聞かせください。

野田首相 我々の若かった頃は、例えば映画の「三丁目の夕日」のような時代だったんです。今ほど豊かではないんですけど、



本田宗一郎さんに代表されるように、とにかく明るく、「つべこべ言わずにやってみよう!」という「やらまいか精神」と言われる氣質が浜松、遠州人にはあるんです。私は、このような元氣なまち、浜松の良さを大いに売り出していききたいと思っています。

徳川家康公は、29歳から45歳までの17年間、浜松城に居城し、天下統一の礎を築きました。また、江戸時代には浜松城の城主を務めると、その後に幕府の要職に付く方が多くいました。今でいうと、浜松支店長を務めると本社の取締役になるようなものです。



そこで浜松城はゲンが良いということで、「出世城」と言われるようになりました。



今日より明日は良くなるという希望をみんなが持っていました。残念ながら、今は今日より明日は良くなるという思いを持つている人は減りましたよね。そこで、私はもう一度、今日より明日は良くなるという希望を持てる国を作りたいと思っています。そのためには震災からの復興も含め、経済を再生させなければなりません。色々な課題がありますが、苦難を乗り越えて、希望を持てる社会を実現するのが今の私の夢です。

鈴木市長 浜松は転勤族の方が終の棲家として選んでくれることが多い土地です。トータルとしてとても暮らし

浜松はフロントランナーになれる環境がある。

やすい環境だと評価していただいているようです。今後もこの環境をもっと良くしていくということ、首相がおっしゃったように将来に対する希望が持てる社会を作ることが、我々にとつて大事な仕事だと思っています。

野田首相 浜松に住んで良かったなど思っていただけのような環境整備はまさに市長の仕事ですね。元気なまちを作るには、元気なトップがいるということが必要です。非常に元気な市長なので、必ず実現してくれると思います。



最後に、お互いにエールの交換をお願いします。

野田首相 これからは地域主権の時代です。地域の皆さんにはそれぞれで知恵をしばっていたいただき、まちづくりに取り組んでもらいたいと思っています。そうして各都市から百花繚乱の産業や文化が出てきてほしい。浜松はそのフロントランナーになれる環境があると思います。鈴木市長はそのリーダーとして、ぜひがんばってください。

鈴木市長 今は誰がトップになっても本当に大変な時期。日本が大きな岐路に立っていると思います。我々の共通の師匠である松下幸之助翁は、国家百年の

大計で政治をやりなさいとおっしゃいました。野田首相には、将来に対して責任を負っていくことを、つらいことも含め決断していただいて、健康に気を付けてがんばっていただきたいと思っています。



対談場所
ザ・キャピトルホテル 東急
tel 03-3503-0109
東京都千代田区永田町2-10-3
<http://www.capitolhoteltokyu.com/>